

「イラストで学ぶ ヒューマンインタフェース」

北原義典／著 発行：講談社 2011年9月20日発行 ISBN 978-4-06-153816-0 C3055
(A5判 223頁 定価2,600円＋税)

ヒューマンインタフェースに関する概論書は最近あまり出版されていなかったが、最近、学部・修士課程での教育のためのテキストとして最適なものが刊行された。全体を15章で構成してあるのは、授業での利用に対する配慮といえる。最新の情報が詰まっているので、もちろん一般の技術者や研究者にとっても適切なガイドとなるだろう。本書の一番の特徴は、書名に書かれているように「イラストで学ぶ」という点にある。原則として見開きの左半分にテキストが、右半分にそれに関連した分かりやすいイラストが入れている。内容的には、人間の情報処理モデルやヒューマンエラーの話から、入出力インタフェース、インタラクションの設計、ユーザサポート、ユーザビリティ、VRやARなど工学的なインタフェースの紹介、モバイルインタフェース、コミュニケーションインタフェース、そしてユニバーサルデザインなどがカバーされており、さらに実世界指向やアンビエントインタフェースなどの最新の話題も紹介されている。欲をいえば、プロダクトデザインなどについても触れてあると良かったが、それは贅沢というものだろう。ともかく本書を執筆した北原氏の姿勢は、工学系出身者でありながら、あくまでも人間の側に視座を置こうとしているものであり、この点に評者は強く共感するものである。

(放送大学 黒須正明)